

令和3年（年度）事業報告書

1 事業の成果

令和3年度は、対象者への支援の充実と収益の確保を目的に、以下の基本方針（基本姿勢）に基づいて事業・活動を展開しました。新型コロナウイルス感染症への対応については、国や県からの通達に準じた対応を取り、感染者を出さなかったことは1つの成果として考えています。

- (1) ストレngthス・エンパワメントの視点に立ち、質の高い支援を提供する組織（支援面）
- (2) コアバリューに基づいて支援に取り組む組織（支援面）
- (3) 部門の枠組みにとらわれず、チームで業務に取り組む組織（収益面）
- (4) フレキシブルに新しい活動やアクションを生み出す組織（収益面）

2. 取り組み状況及び成果

(1) 支援の充実

いずれの部門においても、障がいや特性を持つ利用者が増加傾向にあり、支援者として障がいや特性を

理解すること、利用者が抱える課題を理解した上で支援にあたることに尽力しました。また、個別支援計画の作成や振り返り、面談等を通じた家族との連携を深める取り組みを進めました。

① リベラスコーレについては、約35名の児童生徒が利用しました。傾向としては、小学生・中学生の相談・利用が増加しています。中学校を卒業した通所生は4名、県立静岡中央高校（通信制）に2名が進学、飛龍高校三島スクールへ2名が進学しました。高校卒業は3名、いずれも大学への進学を実現しました。今後は、対象者の掘り起こしとともに、通所が難しい児童生徒への支援を検討することが課題となっています。

② 地域若者サポートステーション事業については、新型コロナウイルス感染症の影響で来所者の減少傾向が続き、就労決定者数100名の目標に対して、約50名の就労決定という結果となりました。感染対策として、Zoom等オンラインによる支援を行いましたが、目標数値を達成していないことから、達成のための対象者の掘り起こし、就労決定に向けた新たな取り組みが必要となります。

(2) 収支の改善

事業収入については、自主事業収入・給付金収入・委託事業収入の3つが主な収入源となっています。自主事業においては、フリースクールの利用者がいなくなり、福祉サービス（放課後等デイサービス・日中一時支援事業）による利用者のみとなりました。

日中一時支援事業については、事業開始当初の想定よりも利用者が多く、給付金収入につながって

います。放課後等デイサービス事業については、昨年並となりましたが、まだ利用率を上げることが可能であり、この点が今後の課題と考えています。

メンタルヘルス事業については、コロナ禍の影響もあり当初の目標を達成することができませんでした。ストレスチェックについては、人員も時間も多く必要となることから、今後はメンタルヘルス研修に特化したかたちでの事業に移行していくことを検討したいと考えています。法人全体の収益としては、昨年度に続き、プラスの収支となっています。

### (3) 体制の整備

関連法人であるリベラインダストリアとの連携を含め、切れ目ない支援体制の構築を目標としました。特に、複数の福祉サービスを利用するケースがあり、双方で支援に関する情報を共有することに努めました。また、スタッフのQOLの向上、働き方改革への対応として、就業規則等を整備し、働きやすい環境づくりを進めました。

- ① すべてのスタッフ遵守すべき、ルール（コアバリュー）を作成し、支援・業務の基本としました。ただ、スタッフ全体での理解・遵守が徹底されない状況が散見され、今後も理解・遵守に向けた取り組みが必要と考えています。
- ② スタッフの勤務については、フレキシブルタイム制度を導入し、支援や業務の状況にあわせたフレキシブルな働き方ができるような体制としました。また、緊急事の対応による残業、休日出勤などへ対応を目的に36協定の締結、振替出勤などの制度を整備しました。
- ③ 支援・業務の質の向上に向け、各部門で毎月アクションプランを作成しました。取り組み内容の明確化、振り返りと次月のプランの作成というPDCAサイクルに基づいた支援を進めることを狙いとしています。法人のスーパーバイザーが中心となって、プランの作成や取り組み、振り返りなどを行っています。今後も継続していく取り組みとなっています。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (千円)
①相談事業	教育相談・一般相談	通年	法人事務所	1人	一般30人	210
②教育事業	フリースクール運営	通年	法人事務所	2人	一般4人	308
	農園運営	通年	リベラファーム	2人	一般4人	2,116
⑦就労支援事業	地域若者サポートステーション事業	通年	法人事務所	6人	120人	25,076
⑧無料職業紹介事業	無料職業紹介	通年	法人事務所	1人	10人	0
⑨障がい児通所支援事業	放課後等デイサービス	通年	法人事務所	5人	一般30人	19,942
	日中一時支援	通年	法人事務所	2人	一般10人	5,671
③障害福祉サービス業		実施なし				
④まちづくりに関する事業		実施なし				
⑤文化芸術活動		実施なし				
⑥特定非営利活動の啓蒙を図るための事業		実施なし				
⑩その他の目的を達成するための事業		実施なし				

## 令和4年（年度）事業計画書

### 1 基本方針

昨年度に続き、対象者への支援の充実と収益の確保を事業・活動の柱とします。

- (1) ストレングス・エンパワメントの視点に立ち、質の高い支援を提供する組織（支援面）
- (2) コアバリューに基づいて支援に取り組む組織（支援面）
- (3) 部門の枠組みにとらわれず、チームで業務に取り組む組織（収益面）
- (4) フレキシブルに新しい活動やアクションを生み出す組織（収益面）

### 2. 支援面

#### (1) ストレングス・エンパワメントに基づいた支援

対象者が持つ強み（ストレングス）を活かし、学校復帰や進学、就労に向けた知識やスキルの習

得に向けた支援を進めていきます。あわせて対象者が自らの生活や人生をコントロールし、学び続ける（働き続ける）ことができるように支援を進めていきます。

#### (2) コアバリューに基づいた支援

前項のストレングス・エンパワメントの視点に基づいた支援を進めるにあたり、支援者として遵守すべきコアバリュー（ルール）を理解し、すべての対象者に最適の支援を提供できるようにします。

#### ※ コアバリュー

- ① 笑顔とユーモアを忘れずに支援・業務に取り組もう
- ② ステークホルダーに対する義務と責任を果たします
- ③ 威圧的な対応、言葉づかいをゼロにします
- ④ 専門家としての資質の向上に努めます
- ⑤ 対象者のモデル（希望・目標）となる支援者になろう
- ⑥ チームで協力して支援・業務にあたろう
- ⑦ 失敗を恐れずにチャレンジしよう
- ⑧ 批判や否定はNG、改善に向けたアクションにつなげよう
- ⑨ 能力・権限・キャパを超えないようにしよう
- ⑩ 働こう！休もう！楽しもう！

### 3. 収益面（事業面）

#### (1) 相談事業（三島総合心理研究所）

- ・不登校児童生徒への教育相談の実施（学校・教育委員会への周知）
- ・メンタルヘルス研修の実施（関係企業へのアプローチ）

(2) リベラスコーレ

- ・利用者の獲得 放課後等デイサービス（契約者20名） 日中一時支援事業（契約者20名）
- ・利用率の向上 放課後等デイサービス（12.5名／日 令和3年度10名／日）  
日中一時支援事業（10名／日 令和3年度7名／日）

(3) 地域若者サポートステーション事業

- ・新規登録者160名（令和3年度93名）
- ・就労決定者100名（令和3年度55名）